



横浜では幕末から明治初年にかけて、通俗英語独習書が出版されました。これらは書物というよりは、一枚刷や折本などパンフレットのようなものが多く、著者、出版社、発行年月日など明記されていないものもありますが、明治初期のものが多いといわれます。耳から入った英語をそのまま覚え、それを仮名で書き表わしたもののなので、発音・文法の誤りや意味のズレもありますが、つづり字に惑わされないのが、かえって実際の音に近く、当時の英学者先生よりもよく通じることも多かったといえます。今回公開されるコレクションにはそのような通俗英語独習書も多数含まれています。

これとは別に、横浜では実際に使われている言葉を注意深く観察した上で、理論と経験に基づいて編集されたヘボンの『和英語林集成』や柴田・子安の『英和字彙』のような日本の英語研究・英語教育に大きな影響を及ぼした辞書も出版されました。『和英語林集成』の初版（1867年）は今回電子化されませんが、2版（1872年）、3版（1886年）など数冊が公開されます。『英和字彙』は初版（1873年）以下数冊電子化されました。その他、英語、フランス語、ドイツ語の辞書、学習書などが含まれています。

聖書関係のコレクションの中には、J. C. ヘボン、S. R. ブラウンら宣教師が日本人の協力を得て翻訳した『新約全書』（1880年）、『旧約全書』（1888年）、『旧新約全書』（1904年）をはじめ、これらの分冊本、また、漢訳聖書に訓点を付した『訓点旧約全書・訓点新約全書』（1884年）、参照箇所を付した『引照旧新約聖書』（1890年）など様々な版があります。大正改訳と呼ばれる『改訳新約聖書』（1919年）もそのひとつです。特に珍しいのは、ネイサン・ブラウン訳、ヨコハマ・バイブル・プレス刊行の『與波禰天無』（ヨハネ伝、1883年）、『士之也乃和坐』（使徒行伝、1883年）といえます。

これら『聖書』そのものの他に、『天道遡源』（1881年）、『真理易知』（1883年）、『心の夜あけ』（1873年？）、『エリサベツ小伝』（1883年）、『見而得生』<sup>けんじとくせい</sup>（1884年）、『さいはひのおとづれ、わらべてびきのとひこたへ』（1873年？）、『旧約聖書歴史』（1884年）など、伝道用の小冊子や書物、それに讃美歌（1883年）もあります。

今回の〈貴重書〉の公開は、洋学史、英学史、キリスト教史、聖書和訳史などの研究に大いに寄与することとされます。

